

福知山公立大学 2018年度 卒業式・学位授与式 式辞

本日、ここに福知山公立大学を卒業され、学士の学位を取得された27名のみなさん、おめでとうございます。ご家族ご親族の方々にも心からお慶びを申し上げます。また、福知山市長大橋一夫様をはじめ、ご臨席賜りましたご来賓各位に厚く御礼申し上げます。後ほど、本学学歌と応援歌で卒業生たちの旅立ちを励ましてくださいます福知山混声合唱団の方々にこの場をお借りして心からお礼申し上げます。

卒業生のみなさんは、ご家族・ご親族だけでなく、これら多くの地域の方々やここに参列している本学教職員たちに支えられ、祝福されて今日の日を迎えられたことを深く心に刻んでおいてください。

みなさんは旧成美大学に入学し、福知山公立大学の第3回卒業生として学生生活を終えられました。在学中に公立大学への転換があり、ご苦勞をかけたと思いますが、不安を乗り越えて今日を迎えられたみなさんの努力に敬意を表します。

さて、みなさん、本日の日付、3月23日は「世界気象デー」です。1950年の3月23日に世界気象機関条約が発効したことを記念して、世界気象機関(WMO)が10年後にこの日を世界的な記念日に決めました。世界気象機関では、気象知識の普及や国際的な気象業務への理解の促進に努めています。世界の気象データの共有ばかりでなく、台風や地震情報などの研究や情報も共有し、その精度を高めることに努めています。また、よく知られているとおり、気候変動に関する国際連合枠組条約(UNFCCC)が1994年3月21日に発効し、世界の人々は地球の温暖化を防止し、地球環境の保全に努めています。

そればかりではありません。聞きなれない言葉かも知れませんが「SDGs(エスディーゼーズ)」というのがあります。「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称です。2015年9月に国連で開かれたサミットの中で決められた国際社会共通の目標です。そこでは、「あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる」に始まり、飢餓を終わらせ、持続可能な農業を促進し、すべての人々の生活の確保・福祉の増進、質の高い教育と生涯学習機会の促進、ジェンダー平等、雇用の促進等々から海も陸も空気・気候も含めた全面的な地球環境の保全、国と国との間の不平等の是正やグローバルなパートナーシップの活性化に至るまで、合計17項目の目標を掲げています。

日本が1945年に無謀な第二次世界大戦に敗北した後に定めた日本国憲法の前文では、「平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しよう」「全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する」と謳っています。

この言葉が、抽象的一般的でなく、少しずつ具体的に人類全体の目標として掲げられる時代になってきたということです。

みなさんはそういう人類の新しい段階に今から社会人として参画していくのです。

もちろん、掲げられている目標自体もまだまだ抽象的ですし、小さな力ではどうにもならないことばかりだと言えるでしょう。しかし、私たちの力がどんなに小さく、弱弱しく見えるものであっても、掲げられた目標は私たちの未来も含めた全人類にとって不可欠の課題であり、解決を求められている事柄なのですから、決して諦めてはいけません。

みなさんがこれから始める仕事だってそうです。「最初はどんな仕事も分からないし、出来なきゃ面白くないのがあたり前だ。続けているとある日突然見えてくるんだ、そうするとやる気が出る。そこでもう一押し頑張ってみると、なるほどそうなんだともっと具体的に何をしたらいいか見えるんだ。繰り返し繰り返しやっていりゃ、パッと目の前が開けて面白いと思えるようになる、そうなればめっけもんだ」という言葉を遺してくれたのは、かの世界的にも著名な映画監督黒澤明さんでした。

あなた方がこの大学の地域協働型の教育研究で学んだことは、何よりも、決して諦めないという粘り強さであったはずです。

これからの人生、どこまでも粘り強く決して諦めないで、どんなに小さなことでもそれが人類全体の未来に関わっているのだという大きな抱負を胸に抱いて歩み続けてください。

それではみなさん、ごきげんよう。

2019年3月23日 福知山公立大学学長 井口和起